長岐菊七郎捜札

特別
へ5
6590
97

乳

へ5
6590
97

序

山金

彩川のなかれに沿て行くに山はよそほしく水はきよらにうつくしきうつむきふもとの部落の部屋にて粉しく車社屋にて愚老の如し　柿

愚老若かりし時後雪中菴の松下に厲しく蕭風の奥義を探求し号して菴主蓬莱と呼び居たりき

以下更登場のいたれかゝしぬの交を
あれハ菅の根の永き春のハ富岡
橋の下ゝ奥を伺しかゝるか八相を性
九夏三伏の友ハ一葉をすゝる張
こつゝゝ月よりそぬよ光陰丹を砂
せし勇子いまゝとゝよ好ハ風
誘ハ後ゝ八秋葉三圍の紅葉ゝ下ト
那ゝも酸をすめ玄冬ゝ雪の朝ハ
後ゝ雪中菴の兼添ゝ生ゝ生ゝ世せし

伏見の校ゝ更世を助ゝ也越乃蕉
義を橋へも志賀やゝ見ハ侍もかゝ
勢ゝ而ゝ生ゝ場四の境ゝむゝひ在五ゝ
乃新中那のひゝ世ゝ世ゝ世ゝ
ゝ後ゝ夏ゝ墮ゝ涙ゝかゝ新陸ゝ
しゝ那ゝ宮ゝ後雪中菴波ゝ
移ひゝ後淮ゝ風雅を淮ゝ
見四世の安ゝ世ゝ菴ゝ雅裏ゝ
共ひ花ゝ栄庵ゝ岡此ゝの交を

[illegible]
[illegible]年時[illegible]
[illegible]
[illegible]市中より開を[illegible]
[illegible]白衣の[illegible]
[illegible]
[illegible]比翼の[illegible]
[illegible]造化を師とし[illegible]
[illegible]後[illegible]雪中[illegible]

聞出[illegible]七郎[illegible]拔の一書を携来の[illegible]
とりひ又々遠[illegible]の[illegible]と[illegible]
稲舟の[illegible]むと[illegible]
[illegible]又但七山の舟の[illegible]
の沿[illegible]を書付[illegible]
一字不説 [illegible]山の[illegible]
旨室[illegible]辛巳晩夏

室

偈今

こゝ[illegible]寶暦辛巳乃とし晩夏長太島
坂雪中庵更登公翁みまかりてより新物候折
うつりてゝ芳野川黒流らく行水のまくも
せとゝせ紙其はゝ[illegible]んとゝを是故少落し[illegible]居
蓑を遮福乃志を深くゝ[illegible]如く
せんと欲乃愛よ更登翁生涯俳諧ゝ
祖芳の俳諧を部析ゝ市猶猿蓑炭
多乃は毒恵日坂さるゝ[illegible]ゝさこ曠野を

壮厳典雅幽玄微妙を抜群とす
故道の中より見識の博学なるを知り
て捜索して其奥に芭蕉門葉荻子
四時の佳句を彼屋に伏て忘
草を見るに及ぶ
ものくを面の一集と
なし給て芭蕉七部捜と名付
て序跋ハ雪中門下の俳句
更仙吐月蟻林の人々書しむ
志厚く更登翁の餘響を考ひ文藻

又君の家の年中すべき事
端小事なりとも其事なき
ものなれば
ものいうほの沼乃いの
ゆるさるを見る
中ゝ頻ゝ
更登翁の嫡孫
て志ゝ
書しむ
筆跡なれ
断乃ち
家とき
文祖の情
唯於是して
荻
蓮上
ハ
荻

此してよき色の接木仕り候ハ
不相成ものに不無之候へ共楚水謹述

叙由

先師定登居士の弟子眠牛を患
かゝ乃ゝ月被相衣をしとゝる句ゝ遠小
仏て西時中伐ゝ孫もをの伐ゝ
芋畠の文伐酔て林上ゝ花を生て
こつゝ病源と称せしとよ芭蕉翁
年ゝ年ゝ又晨鐘度の風雅をつゝ引

詠ず人と味うて旅と同じいと長閑
なる様いきうめりて一年と少年は
世間を長く世のむう様志の如
なるまゝ飛生れ出ぬ旅まあなるまゝ様
うゝひ来ひて出来ること此あり
こゝと思ふなのうゝ様まなるいますう
ひと様を今更なりとして老後
又事よう奇怪を使うう人の高野ま

交ゝ戸の華様四人を首て師多勢
迎信を伴て校所ゝ様様ゝけうく
松所ゝ笑ひ来ひ年渡おうゝ昭屋
号れてゝゝ新ゝ沢庵と禁屋
東西ゝ小の源宮となれを必ず又
関のてゝれゝ月宮れおゝ山ゝて
源門の法を例のひさこ小春迎う
是様遊加ゝて天地の二重となゝ

祈りて　七日　我家乃般若
さんぶきょうを　三人　三世事
蓮を　筆　誠　御　相下の　間　仰
ぶしく

寛延二　十六月

寛保二壬戌　正月十五日　吏登　正述
蓮太　識

小庭の梅　咲て　竹　緑の　日　もうらと
白　紅　二　相　眺　ゆ　竹　緑　の　日　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一　同　云　　あ　の　日

狂　月　木　四　ら　し　れ　月　八　竹　神　ゆ　似　ゆ　式
此　狂　る　の　二　字　或　人　の　の　日　一　歌　の　意　味　を　ゆ　ゆ
や　し　い　ら　は　れ　あ　ら　ゆ

[illegible]

一又問　日葉

何ゝ[illegible]なんゝは[illegible]　[illegible]

田中[illegible]こまんゝ柳[illegible]

[illegible]こまんゝ柳は何ゝ[illegible]

[illegible]は[illegible]田の[illegible]深測と[illegible]

[illegible]女ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]世を[illegible]て[illegible]を[illegible]の柳を[illegible]柳

[illegible]ゝ[illegible]

俳諧と[illegible]

何[illegible]額[illegible]

[illegible]

[illegible]文庫[illegible]むかしの時
[illegible]人（八重俳者）[illegible]の[illegible]
文庫[illegible]俳諧を[illegible]ことはあり[illegible]
事なれども[illegible]白をとあるこ[illegible]
[illegible]出ぬ[illegible]
年月[illegible]人[illegible]俳諧也

一又問　日集

遍人乃記[illegible]の書状[illegible]
[illegible]紙の名[illegible]　水

昔洛の東山に宗紙[illegible]あり[illegible]やら[illegible]は[illegible]
又[illegible]遍[illegible]（の[illegible]の[illegible]）[illegible]
[illegible]遍[illegible]の[illegible]
[illegible]の人[illegible]
[illegible]郡上[illegible]
[illegible]宗紙[illegible]
[illegible]和歌を[illegible]
[illegible]
[illegible]白[illegible]
[illegible]宗紙を白[illegible]

[illegible]

何はるも[illegible]なるるも俳諧の白とても古今の骨格[illegible]

今又かくのごとくに[illegible]

人の[illegible]

又[illegible]

今人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月廿[illegible]

一問　日集

鳥城八[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おすひあまり長れ[illegible]

日集

何もさ乃謎も[illegible]時ら

秋水つ斗りつくを取り

原文元本任世曲芸の[illegible]なへ謎とも字数なし

秋の秋も秋ちなを[illegible]ら水一斗よ海別とも[illegible]

[illegible]の[illegible]て夜よ[illegible]ば[illegible]月[illegible]とすると

はあり[illegible]いつをや我[illegible]も[illegible]なる牡丹と[illegible]

年の[illegible]牡丹ハ[illegible]と[illegible]小さ[illegible]て

尚[illegible]ハ[illegible]も乃ハ[illegible]な年も[illegible]

面白[illegible]も[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

同十七日夜話　日集

[illegible]

[illegible]

[illegible]　乃　銀

[illegible]

[illegible]

廉品の月神鶴殿をなつかしん
秋長谷の貞徳乃　西

一問しかねてハ三重ゑ給し山格も芸うしゑや
菅原の道真ゑ牡丹ゑをそなへと同事ニ茶ゑ
まつとゑるとゑまつとゑのらぶをねさして光明殿を参し
月ハ春住ハ夏のとのらやゑ信て春ゑ年ゑ鶴
今も月の秋ハ春るゑいくゑもをし
師云三新ゑとゑふゑはあをを行なよ又をゑ
年ゑもゑて人ゑねゑ為ゑ三ゑ年ゑ

詩集

詩集とても時代と古人の骨格をえて独自なよ
ゑるゑゑ高のゑしらゑもをの日ゑ表紙月ゑり
あゑやゑひさこハ猿の裏ゑ熟し　初炭ハとゑに
ゑゑげ上ゑゑゑし候猿裏ハ炭俵ゑ行ゑり
金能ハ三反説の原月ちやとゑ師ゑゑいゑ
思ゑはゑゑゑ玉説ゑ丸ゑ立ゑ炭俵ゑゑ
光師も山高俵ゑ生流の中ちやとゑゑ
山炭俵曲天ゑし山ゑて立て師ゑの見解ゑ
やゑもやゑゑ説ゑ今時の考ゑ人ゑ

時代ちがの貞享ちがのと申ふ事なれば
世上ゝ古学ゝと云ふるの八家と何もいとめしき事ハ
見て知りし計ゝ浮世絵をやうゝとゝ人つゝ

月集

高せ山き寺ゝ源海を伴
秋月の庵ゝ寺ゝ学ぶ月さハ
師云ふ西白ゝ屋ゝ寺ゝ源海ゝ
糸掛せて八月つゝ寺ゝ
十八日　雨降　八ゝ寺ゝ又巻のゝを写く

一同

佛巻ゝ写ゝ
源氏巻ゝ作ゝ

はこゝ
芭蕉波ゝ何庵ゝ
真心俳諧の作の仏像ゝ
寺ゝ有ゝ又芭蕉ゝ
いゝ家ゝ
巻ゝ

いもせで花又はかりくとゝ[illegible]
かゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

日集

萩織るかさを市よ張ゝ
加茂川や板屋麻子代系微也

一同　板屋よ代系いたくのるぶや
若山系ハ上加茂の川上よ稲荷の祠あり山水流
流せるゆゑ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]
板屋なゝそこで代系ふをいひ[illegible]

又ゝもの[illegible]
師云ハ一集ハ[illegible]ハ

[illegible]や[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

山[illegible]ハ[illegible]紙[illegible]
[illegible]
山[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]山[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

一同はまことに玉もぬけ春の柳とは申紙
なれ
言葉〻〻書て有しを見ると
ゆとりてゐるとこくと
見えしも相はやるる影ひも添ぬとみし
一同太山形といふるばいう
美事見ハ為ハ美ハ年白よ絵ぬ仕方迄長崎
京紙浮世のたゝ〻〻京こゝ百ゝ有もれし
いつで写さす〻〻美事迄とを三本屋十二文有し
一同迄もとハ誰人まわや

言葉山太無智海有り
相よう〻〻る本〻の拵ら居さうり　改也
多れ古栗ハ表ゝ表ゝがるく　京仔
奥山ハ表を志ありの居もの　京紙
、
雲小声仲小ゝ
表紙の雲れこゝ比　也
打ゐ出きいよ雲の紙きゆる　紙
、　仔

[illegible]

[illegible]　　七

[illegible]　　仟

山ぬ[illegible]木の下やゝハ晴やらて　　祇

、

やまぶきの[illegible]くハ竹の[illegible]　　七

枝をなつさぬ[illegible]の山　　風　　祇

若乃[illegible]ハたゝ[illegible]の[illegible]や[illegible]　　仟

、

[illegible]世紀[illegible]　　七

かゝる蓮のおくゝ[illegible]　　祇

出[illegible]日も[illegible]の張の[illegible]　　仟

文[illegible]年[illegible]四年の興引

一同　日集

引すゝ牛の[illegible]

たゝ[illegible]

若いうも[illegible]

[illegible]

[illegible]

同廿日蓮乃次一巻子辛酉仲冬末薄寒仲冬末俳諧
寒云春此月八冬の日うゝ之ゝ八格別寒ゝ之ゝ
師云故経冬ゝ春八苣門の方ゝ寒ゝ冬の日又此はゝ
春のまをもゝ用てかくいまいる海ゝ小ゝ冥ひし

一蓼同　寒此月

咲ゝ之ゝ此切ゝ花白ゝ冠ゝ
秋乃和名ゝ之ゝ　順

世白いゝ
蓼原咲ゝ和名秋の糸ゝ

一又同

ゝ之ゝ此月ゝ洞あゝ花
沈ゝ花四の文ゝ八ゝ帰ゝて
蓼山門の四の髪をゝ帰ゝ沈ゝ四の文ゝ里ゝ此女
ゝ之ゝ用ゝて又ゝ帰ゝ沈ゝ四の文ゝ里ゝ此女
秋風ゝ吹ゝ花ゝ之ゝ　花ゝ之ゝ　北
師ゝ之ゝ冥ひさこ集　花ゝ之ゝ出ゝ沈し
ゝ之ゝ俳諧し

一同　ひさこ集

亀の甲煮らるゝ時ハ鳴もせん
只牛糞に風の吹音
百姓の木綿仕廻ハ冬至て
此前句ハ作者よまておもしろき上ハと不審ありまじく
是等付句ハ風やさしき冬季の業露と云 亀の
甲ハ煮らるゝ時ハ何事もおもしろし 眠も風の吹音と
相果るを深くして第三ニ百姓の季節冬の
季ことハ付そもなく古人の骨折ハ能る事にハ有らず
能よさを継ね出々行ん

月花もなくて酒のむ独り哉
是ハ雑なり
同本二百ある巡杖ハ未小さる入来能き雑落
あて定て何事ぞ又方近敷帝何ぞ理果ぞを知らぬく
附合を問
師云芭蕉門の継者も其の日まで九日かへ一帰りて
所此集すまて古風の称らり我が身も小さとの風
去る所一二ヶ所ハ芭蕉も悔述し 謂れ 有
いかゆる継人のあるし

理をもとめる秋はなくて
あるものの名のみ有りけり
山里に古き言葉の名を捨て
是こそ歌道もあらぬ明かの
昭の名は理をもとめると
孤松の大さみ石といひ格の名は古き言葉の
侍べさそ是歌道をねと前句をかりて一句をかな
さんなりの事はいうるに歌をもとめ事を
悔をしー海の源切をもとめ時永ふら作り出す

風葉の名は紅葉の名とも少ぬいなし

月集

深草の名は八重葉と秋の名
花をはしるる名なれ　一瓶

一同は白菊三枝を以て正花とし
芳成程さしすしてむ八重葉花横よりす
又横よりのさるもあり
猿蓑白の花
糸さくらから一花と咲よりう

春は三月曙はそら

白雪の花咲乱るゝ谷人の業とする所を今時
はこれを堂の下に花を植せ其の又峯白の雪に花な
ぶのと行りいるを見て歌ここに書よ侍らす
是師秘蔵のものゝ由にて三花海人せやゝ

一蓮院　日集

一竹の中に八幡宮の社を建てはるかや

竹の内に社を建て八幡宮を勧請奉れ
八幡の神は竹よりいつまの時の時や

芝成寺　上東門院の御願の橋を橋屋とぞ
ゝ語ん上者ゝ無福の信徒は樹八幡宮の
其木の中に社を命ゝ宵を叫ゝ恋ゝれ八
威を世語して信貴山縁起を家所せゝ
毎年花の時は人ゝ詣せて所他と
稚子の舞ゝ所ゝ所ゝ余所を
花咲たゝ　上東門院八一条寺の辺又

一同　赤の集

猶月と不引　橋をなるあらや

山白ハ岩を打しかたなの一紙とゝ和打の元ゝ
力を活て猶をあしらを通てゐるものゝ少や
芝の故紙ゝ前の月間ゝ八月の月芝居の名
一問
白の死活とゝ云ふるまちうんかゝ方ゝ生有ゝ
芝居活を山ゝ(を)理屈ゝ犯白ゝ成人裏角ゝ
はるをんセしゝハ
刈跡すいりやめハ小北ゝ云のゝうん
角云芝居白ゝ源ゝの源ゝうゝと世ゝ(ヲ)ゝ事ゝ成

活ゝるゝ山活地ゝ故ゝ水ゝ本ゝ手ゝ入ゝ通ゝ
水の源ゝのゝるゝ流ゝ地ゝ字ゝ器ゝ生ゝ理屈ゝ
ぬきゝるゝ白ハ生ゝふゝくゝと古人の教ゝ通ゝ
不理屈屋ゝあけゝと山ゝ人情理屈地獄
出ゝ生ぬゝの方便ゝ
原云い川ゝや山ゝ吉洋の百顔ゝ生ゝ真堂ゝ
をのこ十ゝみの活ゝ方ゝ七ゝみゝ書ゝ何ゝ
やゝゝゝゝ山ゝ山ゝ作ゝ山ゝ山ゝ
上ゝゝゝゝ活ゝゝ活ゝ真堂ゝ

[illegible]て見給へ洋夫い
[illegible]あらナあのつゝみさよ我
[illegible]の物も成しまて連れよ所いふて
懐紙を引裂くを愚なもこんな糸と此時ふとハ
はやくみとるもみるもやや
其日更山入来年会を傍へて長戸卯兵衛のら
[illegible]あり毎中雑俳師云小池の拝殿なもし
[illegible]むきとふるこゝろもたのゝ何りと
[illegible]のゝ[illegible]の人ゝしても

四季の有果の人ゝ又狂句を来こと師乃
池坊の立花ある初年より四季の風流狂句四更
立てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
二月二日小名木沢の[illegible]より師一[illegible]更を更風
[illegible]初[illegible]年[illegible]仕[illegible]ゝ
から紙越ゝ女房の咲
[illegible]の借ゝ行つゝ
師は[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

人を笑合笑心をとり

梅原り逆樽の生駅駅

はやくより長くなりしものくさを世流れはよく流れる乃

蛍火をとんぼはそれおなをを突き流して別の西流れて

行きし上へ行かぬ所で心裏ゝ行なり　四ゝ

白ハおなをを人生るゝ中一ゝ有る時は迷ひ我

迷ひハ立ぬ人なし前の有るのゆえ人ぬ時ハ有る乃

仏者ゝ意我ゆゝ行なり

一　葉又同行白ハ行ぬ中ゝ行ぬ

ものハ行ぬ葉ゝ

芝ぬ行ぬ行ハ一歩ものゝ立ゝ岩苗白ゝ立

行ゝ行る俳諧師乃発句ハ時を知人稀し

歩白岩のぬくゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ

ゝ人師秋ゝ岩のゝ

市中は

ありゝゝ門ゝ乃ゝ

市中小門ゝ物の白ゝ異の月

同四日つゝ　蕉秋　桂庵

一蓑問　猛蓑の中に

何ものもなきがごとくにして静かなり

里人こゝ初てこの　見　吹

芝生は大業年より八山伏の年の月に宗旨を

背き毒の時に伐し年の時より絶て下山をなす

なりて里人こゝ初てこれをもとめ山に入て

宗門或山物を拾る人を豆腐を呼時も見る

ふくなりなし年の見へ　元

年又年の見て吹問　ひぼの沼のあと点つ花ぬ

こゝろく家仕様の名のあるまゝに当のあるまゝ

一更毛問

吸とのはたてらさまてこ出ぬ

いゝ

芝肥後玉水長年より水泉池清水苔生ると

一日問　盧全をはこいゝ

芝京の詩人こ宗祇を手こ人こ芝ぬも毛て

盧全をこゝ名ハ何　こゝ名の日の中に

日本の本の日ゝ坊に月をこんて

といふもとは何さうあらはれ（と）はぬ分法角と
他の人を本自（）とたくみなれとふるやうなるもの
立金のなかいちよりとかりて只業人の隠者とりんて
立ちうれしき光を俳諧の座主といふて おる 浅
実ときかけしいりの所のの人やの所のとあらやのて
記源を後世ていふ故年うさしいふて奇蘇故なるも
世ていふるハ又何一さるなり

一蕉問

腰骨のまゝ鄙西るちうきき

嬉しかりて車引こむ
ぶそ光いタ新の品れ伊さしん
猫うの中こ

二ヶ面よりも果ま稿ま出
古のうちの稿ま二ヶ面のうの上ちこ一ヶ面を
後るし二ヶ面ま十なるも小稿ま出るの法角
二の字て立一て立うよきうう

一蕉又問

ひまり帰小四うと拾法角ルや

[illegible]の二句

[illegible]

[illegible]

日集

稲の穂乃いとかなき風

[illegible]

師云如月伊勢世[illegible]

[illegible]

[illegible]

おとろへき[illegible]

[illegible]

みる月や[illegible]

十[illegible]

同　張[illegible]

[illegible]

[illegible]

一蕉同

[illegible]の水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉柏　[illegible]柏　[illegible]柏

[illegible]

[illegible]柏

一同　[illegible]柏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一同　[illegible]

光琳やこじゝ[illegible]北山茶茶

山句のこゞ[illegible]ふゞ[illegible]いゝ

茶利(トハシル)をし徒やとゝ[illegible]を取るゝ竹茶[illegible]

いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

こゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一同　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

京焼の鼎(カナヘ)蓋の姿[illegible]

山[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

茶鼎(カナヘ)蓋(タヅキ)の姿の[illegible]

よ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一同　さ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

茶[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

山[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一同　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

そをふりいだせの面こ神楽おまてくこみち柏陰
などにをるげね紫みハ雅おくはくこ風ー
白きハ伝保嶋の句てをふられの面こ白ひるる白
よき女のかしらやゆ成かゆ面ゆ白ゆ
一同　暖炉負句の序ニ伝川田素堂の名句
永井家の話をとそくいう
そをふりゆ地下の添人こ
一同　ふ和山舟ゆくの句いう
そを

ふ和山舟さく此の舟ゆ句添ふかゆ暮れ
素堂の名ニ句ゆ
小倉山ふくを此の舟ゆ暮れ
花を中ふ月ゆて添ふをゆ
一同　日集
柄杓ゆつくをこのふをしいり
そをハ伝ゆ嶋竹こ柄の帰を人ふをと
ふるをすぐて柄のふちゆ引色す成か陸こふを
舟のふを舟ハ舟ゆつくをり

一同　同集

濃の谷も去られて

はるかなるいそ

そなたそこくハ橋の本遠うていくらもある事

橋の姫ハ沼を見ることあり高の遠せ〻ぬ〻と

やうん今をもよあるを大さ組板なる板ハ

流をもげて大雪の上流ハ又裏ハ行を

おてをりあしかり俗ハ大河ともふ

三月十五日

一同

時雨や雨ふる時の角ち所

そそ〻ハ雨をうて雨代の海〻なひ〻ハ雨を行

或ハ縄ふるさむし門口や牛ふ〻ぬて初ふ〻れ

こふ雨の濡かり

所云今時の白ハひかけを乾けと四せるる〻

いや〻無有なを乃月〻屋ふ〻きをすたて

かりくるもはけ初る蓮や秋の風

紫のひ〻きをあつ〻り

又たらひを長の川乃転載
又たらひを添て流るゝ長八を乃川から
なきこのかるゝ

一蕨問　岩佐集所合
屋れ下らいう流る
要之の梅津らの長紀
陸れ梅津柱まや
長てるふ乃紀家な記
長もやふひきるる長長梅津北里乃四方北宅

秋もまや陸て月れ川陸るふやまを長ん
長てるふるの乃

一問
麻の長紀やの祝の形恒形
長祝て形恒形志岩形てるふる

一問　岩佐
長や祝ふ丹恒の麻も陸るて
以勾石やし
長て長八年乃祝ら家佐記て条年二ノ岩れ

而て笑て丹波山の麻添なる苦て冬の間に
山城の瑞山へ帰る之相まて八一階の腰元を打て
丹波へ帰る之義に成し連寺麻よ山中まて
あるべかりき
三月十九日
乃奥屋敷にて小生義一昨日村麻一族
一緒に人数之会議仕候間の訳り松風方へ
手紙之瑞手より乃人合一枚の白義を知まと
此度一ヶ所へ仕候ハ師弟恩

して古人の貴和ら信しる人々へ之八岩伝集
生板の此寄旅を所ふる序文より迄七年間の
文庫へ五十里ら此七文字誠業しら所と
天天ふ洞の序ふ半之
三月廿六日三平拝出切稲別の金未村氏へて
奥切師生之
伝
奥洞乃内墨紙　沼衣
以外遠甲詩ふ数白異之

[illegible]

文芳の庵やとはふのうちまで　蕉志

師笑ひなから面白きかな　[illegible]

[illegible]

又面白ふこうれあるとくらかてきます　蕉志

世乃中は三日月ふ様うなる　仝

[illegible]

[illegible]

小名木沢の庵八月を栗まるよはんホンとは遠慮

うち風の辞を手てはやうく一句不出来なかるうちと

自慢乃こうもうもうてはをなをしく

論風辞

二星おもしろかりうに秋のさやうよ　おかうかん

[illegible]

風おもうあるてはき光をとりこそ　桂

花宮ようふ神らふ法こいきるひ　[illegible]

[illegible]

いと清まし神と沖の名残よい　我堂北

花よりはなをハ新よこゝ立ち木戸小間ぬ
ふ手戸紙ばり苦しむ家拍立ち吹き雪ハ
出ぬ所ゝ所ゝ雪ゝ花をつゝ風ふきよう〳〵ゝて
和らくの名を唱ねて梅桃ようらを柳ゝ
かゝらぬ雪ゝ雪ゝ雪ゝと悩しと初ゝ〳〵と
梅ふまるゝ人のされいひうぬきは乃ゝ
濁まるハ降てうゝ水日の風なくして水敷
何ぬかゝ青んや立ぬ少なもくの濁石
あけ下小ゝうゝ河けて乃ゝ上ゝ房の

神ゝ門張けなのうゝ胸はこうひゝ男ゝ
ゝ心をれゝ戸ゝ門ゝ雪ゝ〳〵ゝ微風は
柳ゝ涼却てゝ雪ゝ行ゝ〳〵ゝ乙女の姿
ふゝ〳〵ゝめゝうゝ〳〵ゝ花はゝ
公廉我ゝ〳〵ゝんとゝ雪ゝ和ゝ〳〵ゝ海ゝ
雪ゝ降ぬ船ゝと白ゝ詞ゝ苦ゝ雪ゝ
筆ぬ乃下ゝて流ゝす

文化十五歳癸卯春寫之　杉二

1